

シュパイアー大聖堂
の地下聖堂、



そして
皇帝墓所

によろこそ!

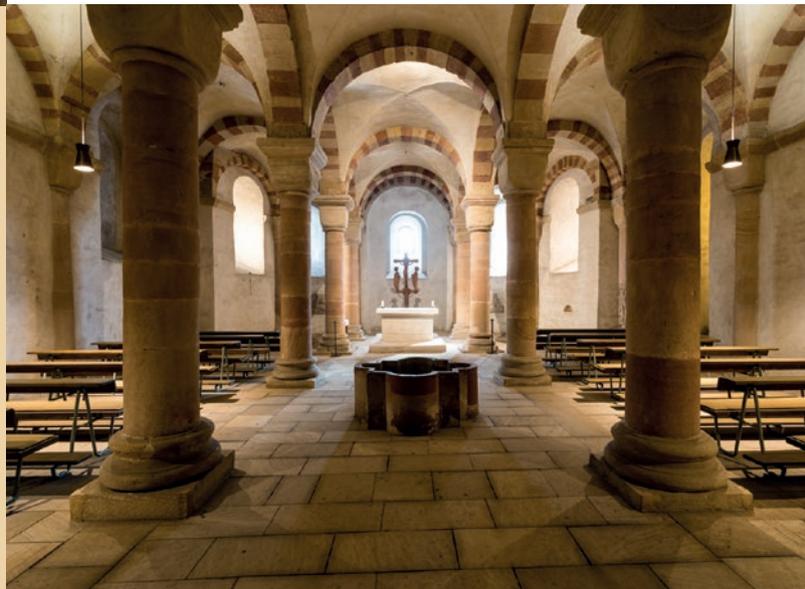


見学者の皆さん、

シュパイアー大聖堂の地下聖堂へようこそ。この地下聖堂は世界最大級の規模であり、またその美しさで大変有名な建造物です。詩人ラインホルド・シュナイダーはこの地下聖堂を「ドイツの土地でもっとも崇高な建築」と称えました。調和の取れた寸法、そして明確な構造は神の秩序の象徴といえます。ここは神を身近に感じる神域であることを、地下聖堂の設計者は表現したのです。この特別な場所で、神との対話を一時試みてください。

シュパイアー聖堂参事会

I シュパイアー大聖堂地下聖堂



シュパイアー大聖堂の地下聖堂は**世界最大のロマネスク様式の地下聖堂**です。幅35m、全長46m、丸天井までの高さは7mと地下聖堂とは思えない大きさです。地下聖堂はクワイア（司教座の部分）、中央交差部（十字教会の4本の袖が交わる場所）そして翼廊の地下にあり、4つの領域に分かれています。中央交差部の地下の真ん中には正方形の部屋があり、一辺に3つの丸天井が収まっています。この3という数は神の三位一体を表し、4辺をもつ正方形は俗世界（四季、東西南北、地水火風）を表しています。天井部分は赤と黄色の砂岩でできたアーチで交互に飾られています。この中央の部屋の北と南が地下聖堂の横袖となり、そこにも一つずつ部屋があります。各部屋には9つの正方形（丸天井）が収まっています。地下聖堂の巨大な柱と厚い外壁が上階の外壁と丸天井を支えています。大聖堂のクワイアの地下の東側にはもう一つ袖があり、これはアプス（半円）になっています。ここが大聖堂で**最も歴史の長い場所**、つまり建築が始まった場所です。



地下聖堂とは？

クリプタ（地下聖堂）という言葉は、ギリシャ語から由来し、「潜在的」という意味があります。ドイツ語の Gruft（地下納骨所）という言葉もこれに由来しています。実際、初期キリスト教の古代ローマの壁の外に作られた地下墓所が地下聖堂の前身だと言われています。後に、これらの墓所の上に教会が建てられました。例えば、ローマのサン・ピエトロ大聖堂は使徒ペテロの墓所の上に建造されました。これらの教会は、祭壇が聖なる墓所の真上に来るように設計されました。聖人を身近に感じて、崇敬したいという望みが、聖人の墓所を中心とし、クワイアの真下に建造するという地下聖堂の建築様式の原点であると言えます。シュパイアー大聖堂の建造を命じた皇帝が、特別な聖遺物のためにこの地下聖堂を建造させたかどうかについては定かではありません。いずれにせよ、今日聖遺物は保管されていません。

II 大聖堂地下聖堂の内部



地下聖堂は当初からミサを行う場として構想されていました。大聖堂には、一時70人以上もの聖職者がいました。その多くは司祭であり、毎日ミサを行う義務がありました。このため、大聖堂の地下聖堂だけでも7つの祭壇があります。東袖の主祭壇 **1** とその横袖の各3つの祭壇です **2** ~ **7**。現在でも特別なミサが行われる場合、地下聖堂の主祭壇が使われます。ここで注目すべきは、地下聖堂クワイアにある1つの石塊から彫られた、四方向に半円を描く大きな洗礼盤 **8** です。これはアルペン以北最古のロマネスク様式の洗礼盤です。地下聖堂のアプスには墓所の墓守 **9** の像があります。これは、当初ハンス・ザイファアの「聖なる墓」のために1508年に造られたものです。地下聖堂には典礼用の備品以外にも、墓や、美術作品が多く見られます。注目して頂きたいのは、ロマネスク様式の獅子です **10**。これは大聖堂の近くで発見され、恐らく大聖堂の外壁の装飾であったと思われます。現在大聖堂が建っている場所には、以前古い教会がありました。なぜ、教会が建っていたのかが分かるのかと言うと、前身であった教会から「聖職者の遺産」としてパルメット・レリエフ **11** が受け継がれたということ、そして大聖堂の東端に大聖堂建設の最中に発見された遺骨を納めた合葬墓が存在するからです **12**。

III 大聖堂地下聖堂の前室の発見



地下聖堂の中央交差部から西側に進み大きな鍛造作りの門を通ると、皇帝墓所に辿り着きます。まずは地下聖堂の前室に入ると、正面の壁にハプスブルク家のルドルフ¹³の墓板に目が留まります。これはルドルフの存命中に作成され、王の象徴としての冠と笏と宝珠を抱き、王が権力の象徴である獅子の上に立っている姿が彫られています。その顔にはハプスブルク家独特の鼻と年老いた憂いが見て取れます。中世では、このような写実的な手法は稀でした。通常、君主は全盛期の生き生きとした若い王として描かれ、個人的な特徴を現す描写はありません。このような**写実的な描写**は中世のものとしては大変珍しいものと言えます。地下聖堂の前室側面には大聖堂に眠る皇帝や王を描写した1480年ごろのゴシック様式の2つのレリーフがあります¹⁴。

IV 皇帝墓所



今私たちがいるのは墓所です。**死者の眠りを妨げないよう静粛**をお願い致します。地下聖堂の前室からは、階段が2つあり、そこを通り皇帝と王の墓所に辿り着きます。これらの入り口は20世始めに造られたものです。以前、墓は幾世紀もの間閉ざされたままでした。かつては永眠についた支配者は身廊の東端の床下に安置されていました。後に、その上に、高座にある王のクワイアへ続く大きな階段が建造されました。1689年のプファルツ戦争により一部崩壊されましたが、皇帝墓所の大部分は発見されませんでした。1900年に墓所は開けられ、副葬品が取り除かれ、今日の地下納骨所が建設されました。墓所はまさに、中世の大聖堂の身廊の一番端に位置しています¹⁵。これは、現在も墓所の左右に立つ柱が、教会の柱の根元部分であることからも見て取れます。これは、支配者が「世俗的な」身廊から「神聖」な中央交差部への境界に安置されているということで、つまり、生から死、そして永久の命への境界に安置されていることを意味するのです。

大聖堂の宝物

プファルツ歴史博物館にある大聖堂宝物館にはシュパイアー大聖堂に安置されている支配者たちの墓所で発見された遺品が展示されています。例えば、研究目的に使用された服飾品や、王冠などです。その他にも、聖杯や装束などの典礼用の備品も見られます。また、大聖堂はどんな材料でできているのか、また時代ごとの大聖堂の外観を楽しめる展示はお子さんにも大いに楽しんでいただけます。プファルツ歴史博物館へは大聖堂から徒歩5分です。

www.museum.speyer.de



大聖堂は当初から皇帝コンラードII世と皇后の墓所として構想されました。ザーリア朝の支配者がすべてここに安置されることは当初考えられていませんでした。ザーリア朝以外の支配者がここに葬られて初めて、大聖堂は、王と皇帝が葬られる場所となったのです。ザーリア朝以降のシュタウファー、ハプスブルグ、サッサウアーの支配者も200年にも渡り、シュパイアー大聖堂を永眠の地とし、**統治者の墓所**となりました。シュパイアー大聖堂はドイツで最も重要な皇帝と王の墓所であるといえます。フランス、パリのサン＝ドニ大聖堂の墓所、マドリッドのエル・エスコリアル修道院のスペイン王、ウェストミンスター寺院などがよく比較に挙げられます。



- 16 皇帝コンラード2世 (1039年6月4日没) 初代ザーリア朝の皇帝、大聖堂の建造を命じました。大聖堂建設中に埋葬されたため、石棺は3つの金属帯で固定されています。
- 17 皇后ギゼラ (1043年2月15日没) 美しく、聡明な女性でした。コンラード2世の重要な相談相手であったと言われています。
- 18 皇后ベアタ (1087年12月27日没) ハインリッヒ4世の妻。ハインリッヒ4世は当初から離婚を望んでいましたが、最後まで夫に尽くしました。
- 19 皇帝ハインリヒ3世 (1056年10月5日没) 貴重な聖遺物入手し、大聖堂に貢献した人物。大聖堂で洗礼を受けることはできませんでした。
- 20 皇帝ハインリヒ4世 (1106年8月7日) 教皇と争い、カノッサへ赴きました。1061年、幼少の頃大聖堂の洗礼を体験し、その20年後、大聖堂の大々的な改築が行われ現在の大聖堂となりました。
- 21 皇帝ハインリヒ5世 (1125年5月23日没) 父ハインリヒ4世から皇帝の座を奪いました。ハインリヒ5世の死去をもって、ザーリア朝は断絶しました。
- 22 フィリップ・フォン・シュバーベン (1208年6月21日没) シュタウフェン朝フリードリヒ1世 (バルバロッサ) の息子。暗殺されました。
- 23 皇后ベアトリクス (1184年11月15日) バルバロッサの妃。幼い頃死去した娘アグネスと共に埋葬されました。
- 24 アグネス妃 (1184年10月8日没) 真ん中の墓所は恐らくバルバロッサのためのものでした。1190年、第三回十字軍の出征の最中に病に罹り死去。このためシュパイアーには安置されていません。
- 25 ハプスブルク家ルドルフ王 (1291年7月15日) ルドルフ王と共に王制が復活。同時にハプスブルク家の隆盛が始まります。
- 26 オーストリア・アルブレヒト王 (1308年5月1日) ハプスブルク家ルドルフ王の子。甥によって殺害されました。
- 27 アドルフ・フォン・ナッサウ王 (1298年7月2日没) アルブレヒト1世とのゴルハイム／プファルツの戦いで敗戦し、戦死しました。
- 28 シュパイアー司教11世紀から13世紀までの司教たちです。
- 29 司教コンラード3世 (1224年3月24日) 神聖ローマ帝国の首相。フィリップ・フォン・シュバーベン暗殺の目撃者でした。
- 30 崩壊された墓所からの発掘品及び聖遺物
- 31 司教レギンバルド2世 (1039年10月13日没)
大聖堂建設者及び聖人として崇敬されています。



地下聖堂皇帝墓所を訪れてくださ た皆さん、最後に

現在の社会及び政治の世界で責任を担う者達のために、そして世界の平和のために黙祷を捧げましょう。

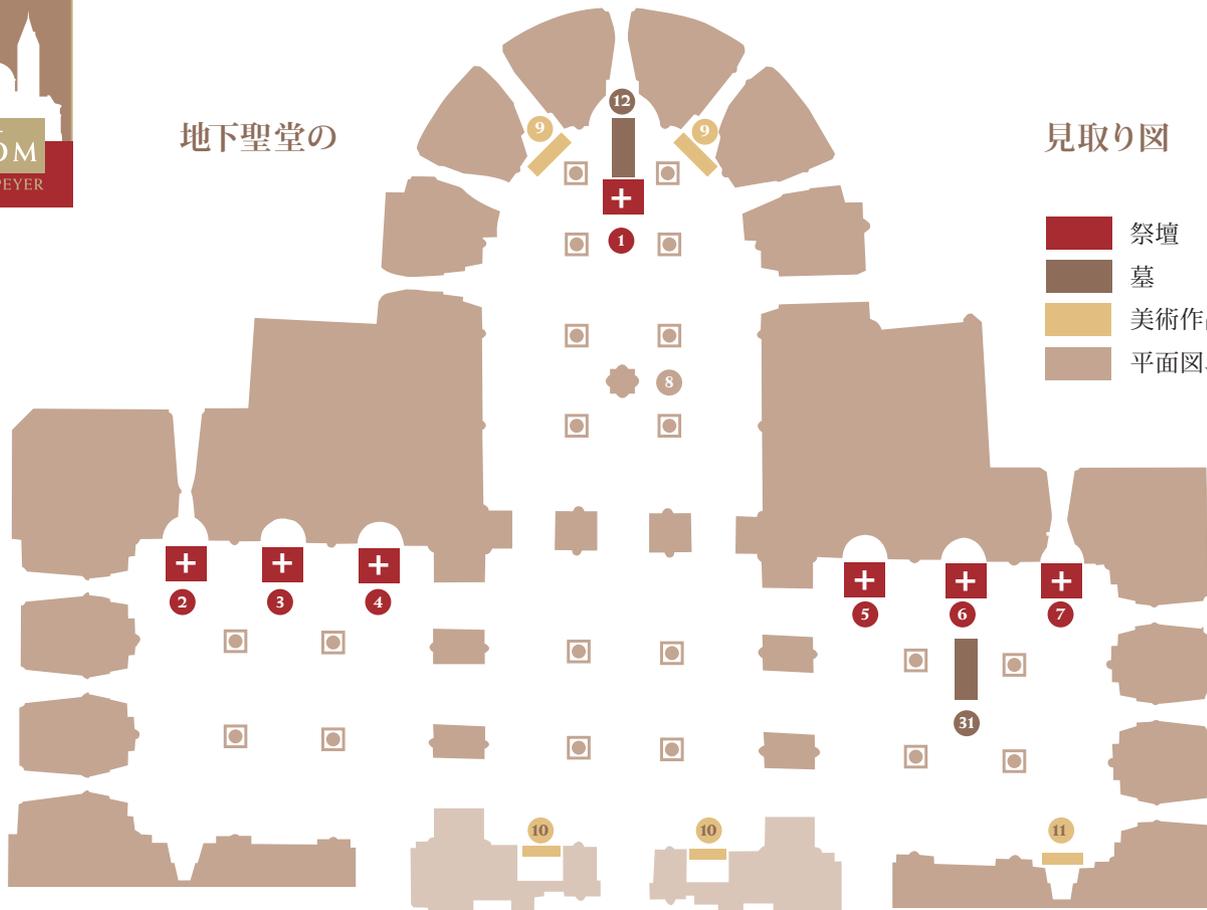
全知全能、永久の神よ、我々の心と民の権利は御手の中にあります。我々を治める人々に幸運が、すべての世界に平和と安全が訪れますよう、民に幸運と繁栄をお与えください。そして、信仰の自由が浸透しますよう、イエス・キリストを通して祈ります。
アーメン。

(祈祷書より)



地下聖堂の

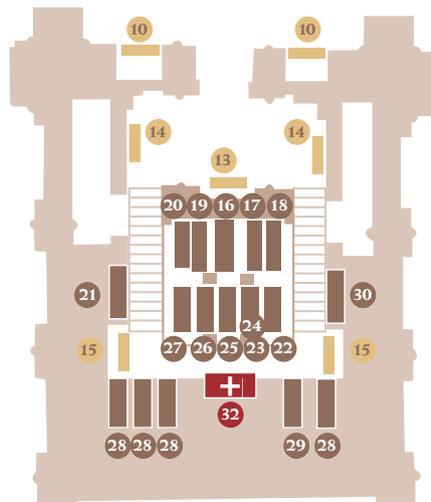
見取り図



- 祭壇
- 墓
- 美術作品
- 平面図、洗礼盤

祭壇

- 1** 主祭壇、聖母マリア、嘆きの聖母と聖ミカエルの祭壇
- 2** 聖ガルス祭壇
- 3** 使徒聖マティアと使徒聖マタイの祭壇
- 4** 使徒聖シモンと使徒聖ユダの祭壇
- 5** 使徒聖ペトロと使徒聖バルトロマイの祭壇
- 6** 使徒聖フィリポと使徒聖ヤコブの祭壇
- 7** 使徒聖アンデレと使徒聖トマス祭壇
- 32** 殉教者聖フローリアヌスと聖ユスティナの祭壇



1000年の歴史、そして将来

大聖堂の地下聖堂は1041年に献堂されました。皆さんから頂いた入場料は、1000年の歴史を迎えようとする建築物の保存に役立てられます。心から御礼申し上げます。

大聖堂の歴史は続きます。皆さんが訪れて下さったことも、この歴史の一部となりました。皆さんがシュパイアー大聖堂で見聞きしたことを周りの人にお伝えください。いつの日か、皆さんのお子さん、お孫さんが訪れてくれることを楽しみにしております。

www.dom-zu-speyer.de



出版社： シュパイアー大聖堂参事会、大聖堂管理責任者
1-5頁： GDKE州博物館, Ursula Rudischer
6頁、7頁： Renate Deckers-Matzko, Heidelberg
8頁： プファルツ歴史博物館、
Hans-Georg Merkel
9頁： Friedrich Eschwey, Schömberg
すべての図版の著作権はシュパイアー参
事会に帰属します。

レイアウト： forte Kommunikation und Consulting GmbH
www.forte-kommunikation.de

言語： 日本語 (japanisch), DS-15-1526/2

Dom-App Android



Dom-App iOS

